

# 株式会社ルネサステクノロジ

## 1. 会社の概要

- (1) 会 員 名：株式会社ルネサステクノロジ
- (2) 所属部会：関東電気機器部会(第4分科会)  
業 種：マイコン／SoC等のシステムLSIの開発・製造・販売
- (3) 資 本 金：約1,045億円  
従業員数：約25,000名（連結ベース）
- (4) 営業品目：マイコン／SoC等のシステムLSI・ディスクリート半導体等
- (5) 企業理念：「ルネサステクノロジは、世界中の人々の生活のいたるところで存在することで、安心・快適・夢を支え続けます。」
- (6) CIマーク：



## 2. 知的財産部門の概要

### (1) 組織上の位置及び名称

本社直属コーポレート部門で、名称は知的財産権統括部（以下、知財部門）です。

### (2) 構成及び人員

IP戦略企画部・業務情報部・渉外部・システム特許部・プロセス特許部で構成し、約100名の知財マン、知財ウーマンが研鑽しています。

### (3) 沿 革

弊社の前身は、株式会社日立製作所と三菱電機株式会社の半導体事業部門です。半導体事業は、歴史的にライセンス契約交渉や特許訴訟等が盛んな事業分野であり、知財活動が重要視されています。2003年の設立以降、その知財活動

を大きく変革し、拡大・発展させてきました。

## 3. わが社の知的財産活動

### 3. 1 知財部門の課題

日本の半導体事業は歴史的には汎用メモリが事業の中心でした。この分野ではどの企業も記憶容量増大と動作高速化を目指し、技術が共通化する傾向があります。更に一品種毎の売上が大きいため、いわゆる「一網打尽型特許」を取得するために、草の根的な啓蒙活動で多くの発明を創生し、良い発明を発掘して活用用いることが知財活動の基本的な姿でした。しかし弊社の主力製品は、マイコンやSoCに代表されるシステムLSIです。これらの半導体に使用される技術は、基本的には多種多様な製品に応じて要求される様々な技術で構成されています。従い「一網打尽型特許」に加え、コア技術や、それに伴うシステムレベル、アプリケーションレベルの特許を積極的に取得し、差別化や技術優位性を常に維持していく等、事業戦略に則した「経営主導型」知財活動が必要になってきます。

### 3. 2 ルネサスの知財改革

#### ① 意識・組織改革

意識改革も組織からということで、上記した改革を進めるため、IP戦略企画部、渉外部、特許部のミッションを明確にし、それぞれ経営幹部、他社、事業部門を自らの主要顧客と意識し、3部門間で議論しながら知財業務を最適化していく「トロイカ体制」を取っています。

#### ② 発明評価基準の見直しとオープン化

弊社では発明の評価基準を見直し、発明本来が有するクオリティ（汎用性・必然性・顕現性等）という側面に加え、市場規模や事業戦略性を考慮したビジネス・ファクターを導入し、将来の活用形態に応じ判断する評価基準を作成しました。これを全社で共有し、創生・育成リソースを重要発明に集中し活用性を高めていくことで、知財活動の最適化を担保しています。

### ③ 知財活動の再定義

米国の経済学者H. チェスブロウはその著書「オープン・ビジネスモデル」で「知的財産の管理が企業のビジネスモデルとイノベーションプロセスに融合する場合は価値を保護するためだけではなく、価値を創造することが可能となる」と述べています。同じく、知財部門では事業戦略に知財活動を融合させることで、経営資産としての特許の価値を発揮させることに注力しています。具体的には、知財活動を「創生」、「育成」、「活用」、「対策」、「貢献」及び「開発」の6カテゴリーに再定義し実行しています。

#### (a) 創 生（例：選択集中型発明創生活動）

事業戦略上のコア技術を選択し、活用形態を意識して発明を創生する制度をご紹介します。事業毎に戦略上重要な技術を経営幹部が特定し、プロセス・デバイス・システムの各レベルで、技術トレンド・市場ニーズ・ターゲットを想定。力強いリーダーが研究開発・製品企画・営業・知財（特許部・渉外部）からのメンバーを率い、ブレインストーミングを重ね発明を創生します。

#### (b) 育 成（例：RV活動）

原石を磨き上げ優れた特許に仕上げる技術は、知財部門のコア・コンピタンスです。RV活動では、ポートフォリオ毎に特別なタスクフ

ォースを構成し、木目細かな議論を実施することで、強力な特許を取得していきます。自由な発想と、過去の経験と英知がスパークする、とても印象的なプロセスです。

#### (c) 活 用

近年は中国企業への活用や、特許ポートフォリオ毎のライセンス許諾などに注力するとともに、契約関係に基づき相手先企業との友好関係を構築し事業への貢献も図っています。

#### (d) 対 策

近年大きな課題となっておりますNPE対策を中心に、基本と正道を第一として対応していますが、単純な非侵害議論や支払額の低減交渉に留まらず、相手方への牽制や、新しい和解枠組による解決等、創造的な対策業務に努めています。

#### (e) 貢 献

事業部門と密に連携し、知財権に関係する諸契約（開発、事業協力、ノウハウ、SW、売買等）について、戦術策定、交渉、契約を支援しています。

#### (f) 開 発

特許の資産価値を最大限に高めることを目的として単にライセンスするだけではなく多面的かつユニークな知財事業を開発・推進しています。

## 4. 今後の課題

2010年4月1日にNECエレクトロニクス株式会社と弊社は事業統合し、ルネサスエレクトロニクス株式会社を設立する予定です。両社の知財部門の特長を活かし、知財活動を大きく発展させていく所存です。

（原稿受領日 2010年1月19日）